

# 大津市高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施事業における取組報告



大津市健康保険部長寿政策課

地域包括ケア推進室

原田 真弓

# 大津市の概要

R3.10.1現在

- 人口 343,991 人
- 世帯数 153,458 世帯
- 高齢化率 27.0 %
- 後期高齢者人口 46,180 人
- 行政区域(小学校区) 37
- 日常生活圏域 15



# 地域包括支援センター (あんしん長寿相談所)

赤: 基幹型  
青: 圏域型、委託方式

真野地域包括支援センター

和邇地域包括支援センター

比叡地域包括支援センター

堅田地域包括支援センター

中第二地域包括支援センター



大津市役所

中地域包括支援センター  
大津市保健所

瀬田第二地域包括支援センター

膳所地域包括支援センター

瀬田地域包括支援センター

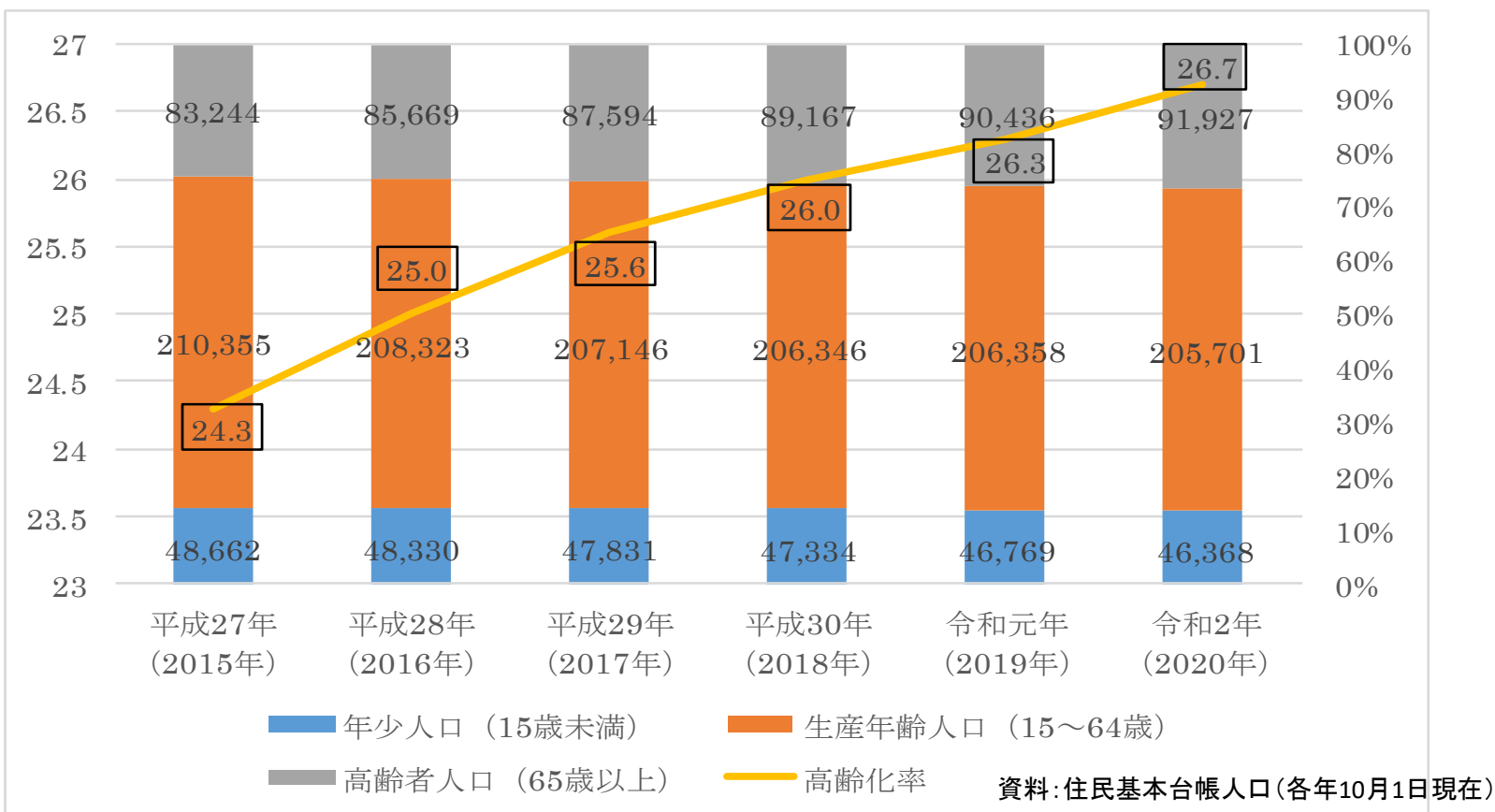
晴嵐地域包括支援センター



南地域包括支援センター

# 大津市の現状

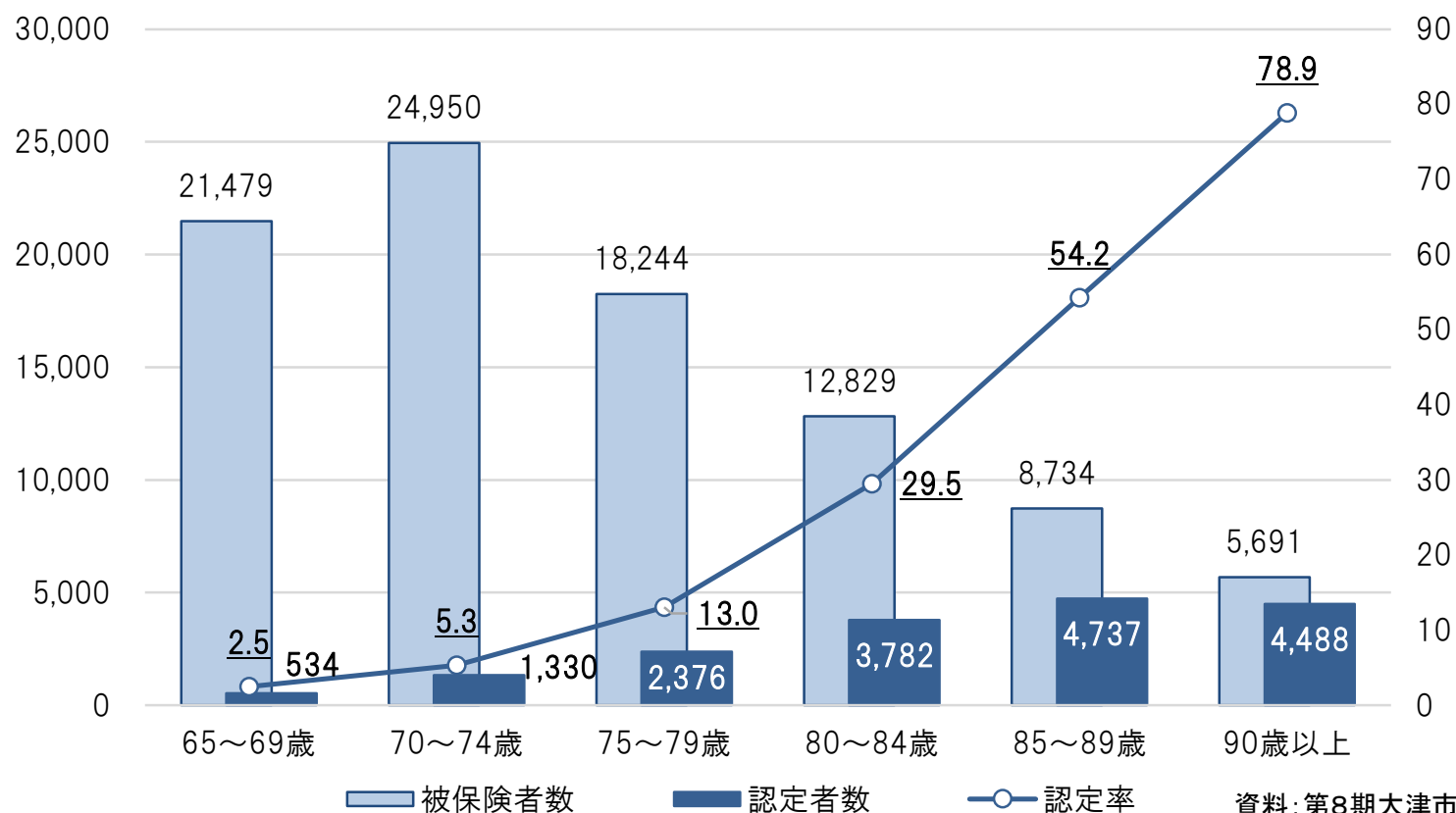
## 人口及び高齢化率の推移



高齢化率は全国に比べて低く、滋賀県に比べて高い。(令和3年10月1日:全国29.1%、滋賀県26.7%、大津市27.0%)

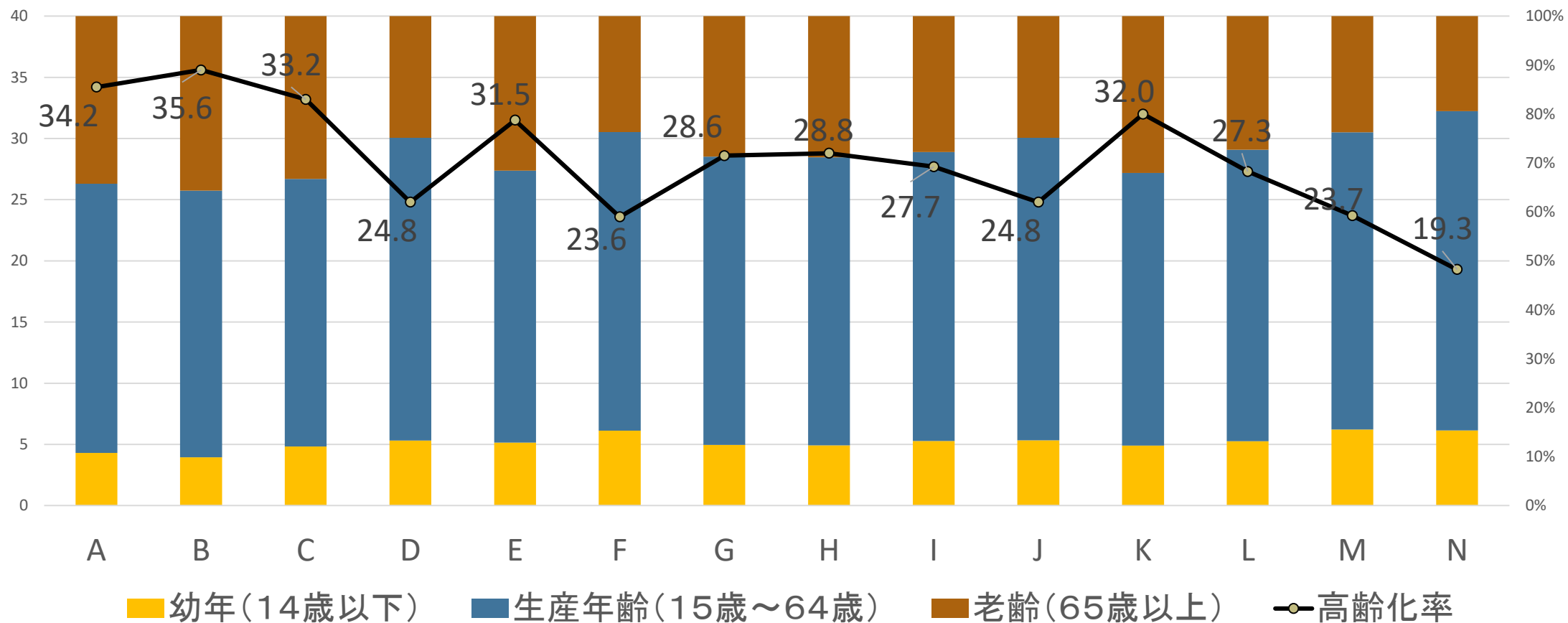
# 大津市の現状

高齢者(第1号被保険者)数と認定者数・認定率の状況(令和2年度)



認定率は、全国や滋賀県と比べて高い。  
(令和3年2月末: 全国18.6%、滋賀県17.5%、大津市18.8%)

# 日常生活圏域の人口等の状況

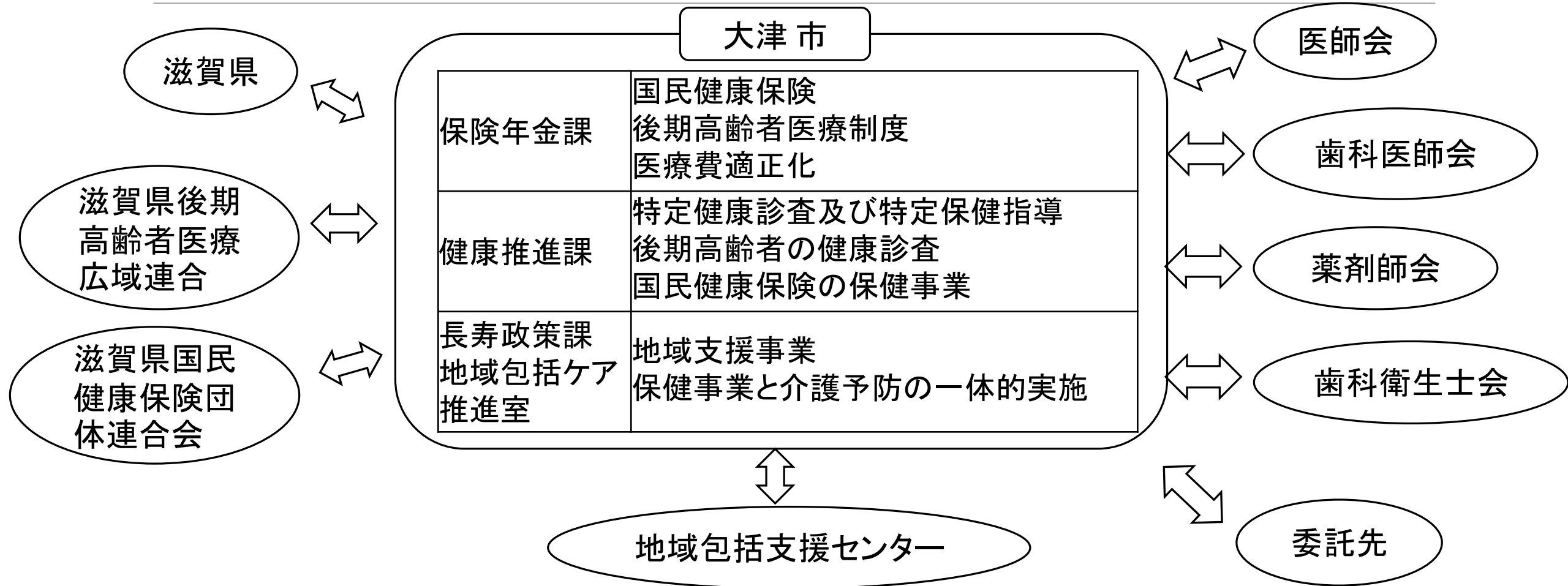


資料: 大津市人口統計表より(令和3年10月1日)

# 長寿政策課の業務内容

高齢企画係	高齢者支援に係る企画・推進等
事業所施設整備室	民間の介護保険施設等の整備 介護保険サービス事業所の指定等
高齢福祉係	認知症施策推進事業、虐待関係等
地域包括ケア推進室 保健師3人 PT1人	地域包括支援センターの管理運営 地域包括ケアシステム体制整備 介護予防・日常生活支援総合事業(事業所指定除く) 地域リハビリテーション活動支援事業 <b>高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施等</b>
地域包括支援センター	介護予防ケアマネジメント 総合相談・支援事業 権利擁護事業 包括的・継続的マネジメント等

# 事業体制図





# 事業概要

高齢者に対する個別的支援 (ハイリスクアプローチ)	糖尿病重症化予防事業
	健康状態不明者把握事業
	【モデル事業】日常生活圏域2圏域 口腔機能低下予防事業
通いの場等への積極的な関与 (ポピュレーションアプローチ)	健康いきいき講座(出前講座)

通いの場等への積極的な関与(ポピュレーションアプローチ)

# 健康いきいき講座

---

## ●経緯

今まで介護予防事業として実施していた健康いきいき講座をポピュレーションアプローチとして実施。

## ●内容

事業所へ委託。出前講座、フレイルチェック票の実施と個別健康相談

## ●講座メニュー

「いつまでもハツラツ！フレイル予防」、「元気に歩くための転倒予防」

「脳しゃっきりのための生活習慣」、「トイレの不安を解消！失禁予防」

「イキイキ生活のための栄養」、「全身の健康のもと！お口の対策」



通いの場等への積極的な関与(ポピュレーションアプローチ)

# 健康いきいき講座

---

## ●実施数(令和4年2月末)

サロン 24箇所 (うちモデル地区 口腔 7箇所)

参加者 353人 (うちモデル地区 口腔 104人)

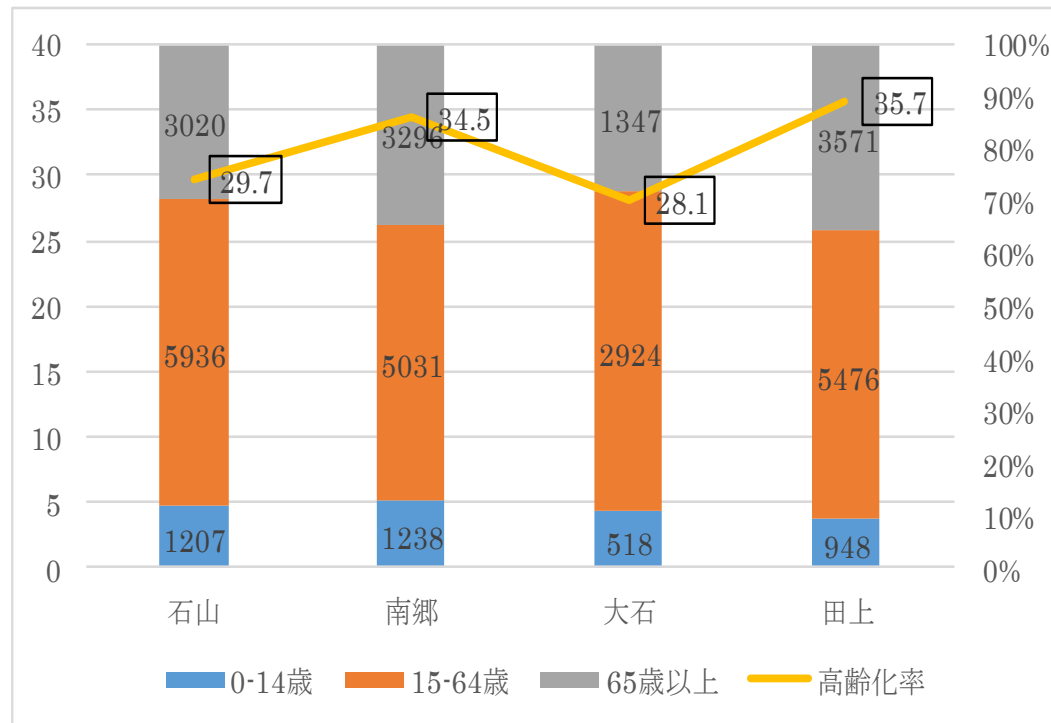
今年度はモデル地区で口腔機能低下予防事業を実施したため、積極的にサロン等に電話かけを行った。



# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

## ●課題

モデル地区(日常生活圏域2圏域)の学区別人口割合及び高齢化率

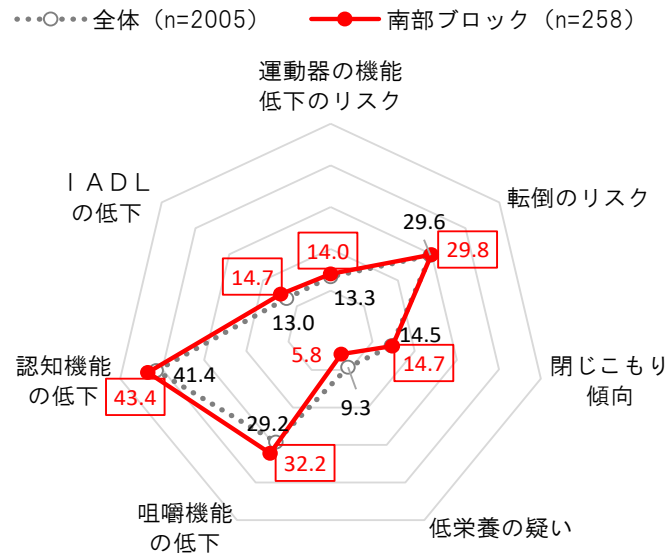


南郷学区、田上学区については、高齢化率が35%前後となっている。

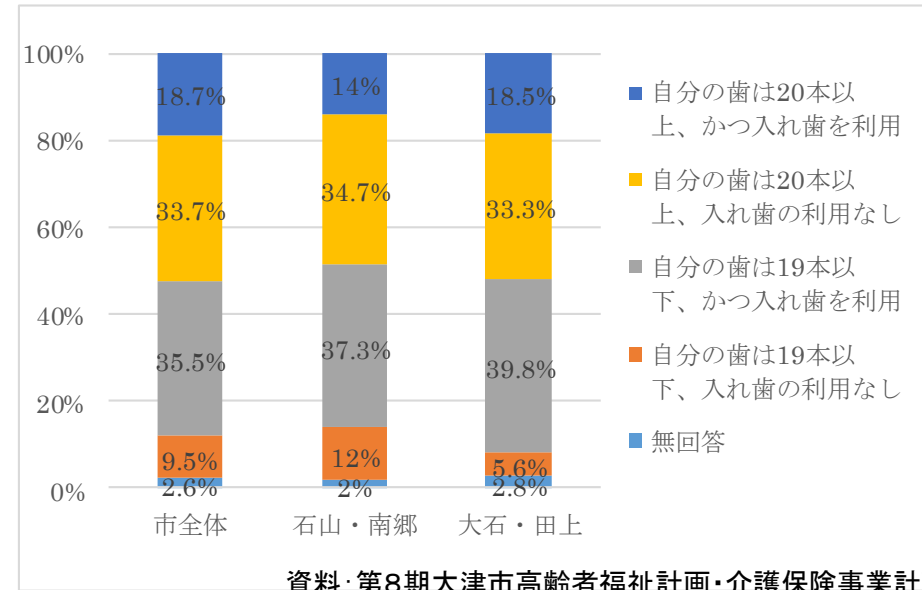
# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より

## ①身体機能低下のリスク該当者の状況



## ②歯の数と入れ歯の利用状況



令和2年12月に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では、咀嚼機能の低下が市平均に比べて上回っている。また、この地域は歯科医院が少ないことや交通の便が悪く、健康教室の参加が難しい現状がある。

# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

---

## ●目的

個別に指導を行うことにより、対象者の口腔機能の状態を改善、維持することを目的として実施する。

## ●内容

対象者：①令和2年度後期高齢者歯科健康診査を受診した者で、要指導、要治療に該当したが受診歴のない者

②令和2年度後期高齢者健康診査受診者で、問診結果より口腔機能の低下の恐れのある者

③住民主体の通いの場で把握したハイリスク者

# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

## ●内容

- ①対象者に口腔機能を含めた健康状態、保健指導を個別に実施 142人
- ②①のうち、口腔機能低下予防プログラム参加希望者 17人

6か月間、歯科衛生士や言語聴覚士による月1回の面談か電話による保健指導を実施。かかりつけ歯科医があれば、連携を図り、その指導のもとに実施。

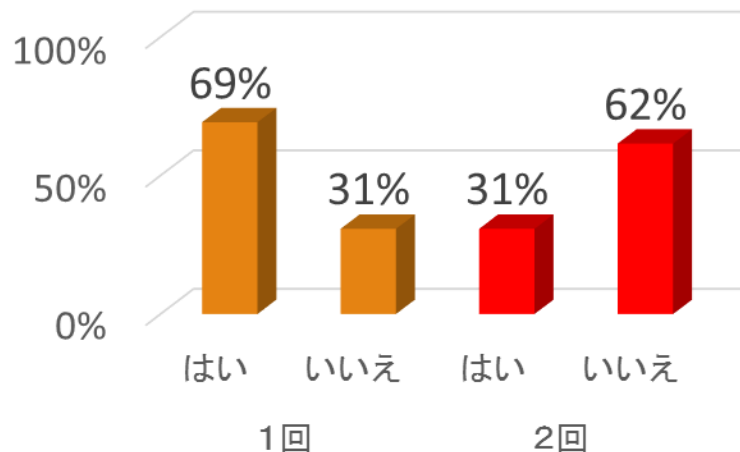


# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

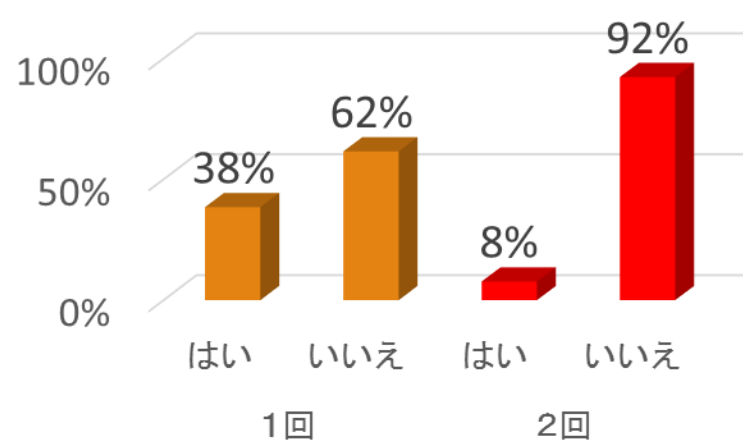
## ●結果

2回目の面談が終了している13人の口腔機能評価について、「汁物でむせる」「食べこぼし」「口が渴く」の項目は面談1回目と比べ改善が見られた。

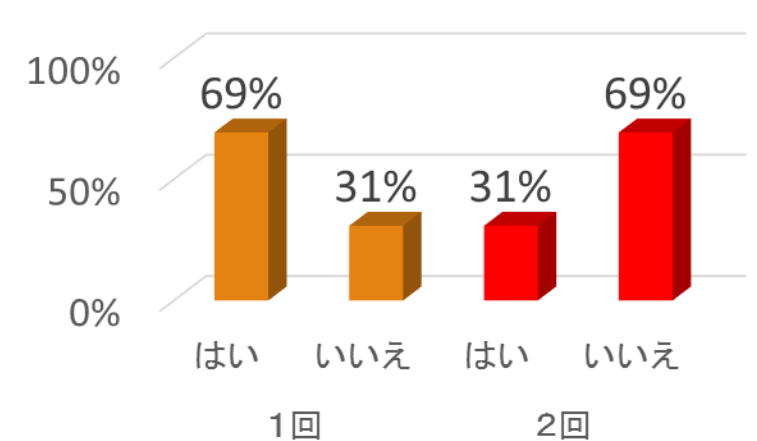
汁物でむせる



食べこぼし有り



口が渴く





# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

## ●結果

RSSTについては、3回出来る人が増加した。

オーラルディアドコキネシスについては、面談1回目より改善がみられた人は6名あり、平均値で見ると1回目より2回目が良い結果であった。

①反復唾液嚥下テスト(RSST)

面談1回目		面談2回目	
0回	0人	0回	1人
1回	4人	1回	2人
2回	7人	2回	4人
3回	2人	3回	6人

②オーラルディアドコキネシス(回/10秒)

面談	パ		タ		カ	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
平均	51.1	51.5	49.4	50.9	46.5	49.5
最低	30	34	34	36	32	32
最高	64	66	66	64	58	60



# 【モデル事業】口腔機能低下予防事業

## ●効果

事業開始前にとったオーラルフレイルチェックでは、「固い物が噛みにくい」「お茶や汁物でむせる」「口が渇く」に「はい」と答えた人が約60%、「食べこぼしがある」「食事に時間がかかる」について、約50%の人が該当していた。

歯科衛生士による指導を受け、参加者が口腔体操等を実施したことにより口腔機能評価に改善がみられた。

口腔機能は個々に課題が異なるため、個別で対応することで、より本人の状態に応じた指導ができた。

## ●来年度は市内全域で実施予定

高齢者に対する個別的支援(ハイリスクアプローチ)

# 健康状態不明者把握事業

---

## ●課題

新型コロナウイルス感染症流行により、民生委員の見守り活動が難しい状況にあり、地域包括支援センターの支援が必要な者を把握しにくい状況があった。

# 健康状態不明者把握事業

---

## ●内容と実績

対象者:市内在住で、令和2年度の後期高齢者健康診査未受診のうち、  
令和2年度以降の医療受診(歯科を除く)がなく、  
介護保険サービスの利用がない80歳以上の者

方法:15項目の質問票を送付 596人

未返送者(248人)のうち、85歳以上の者(93人)へ地域包括支援センター職員による訪問

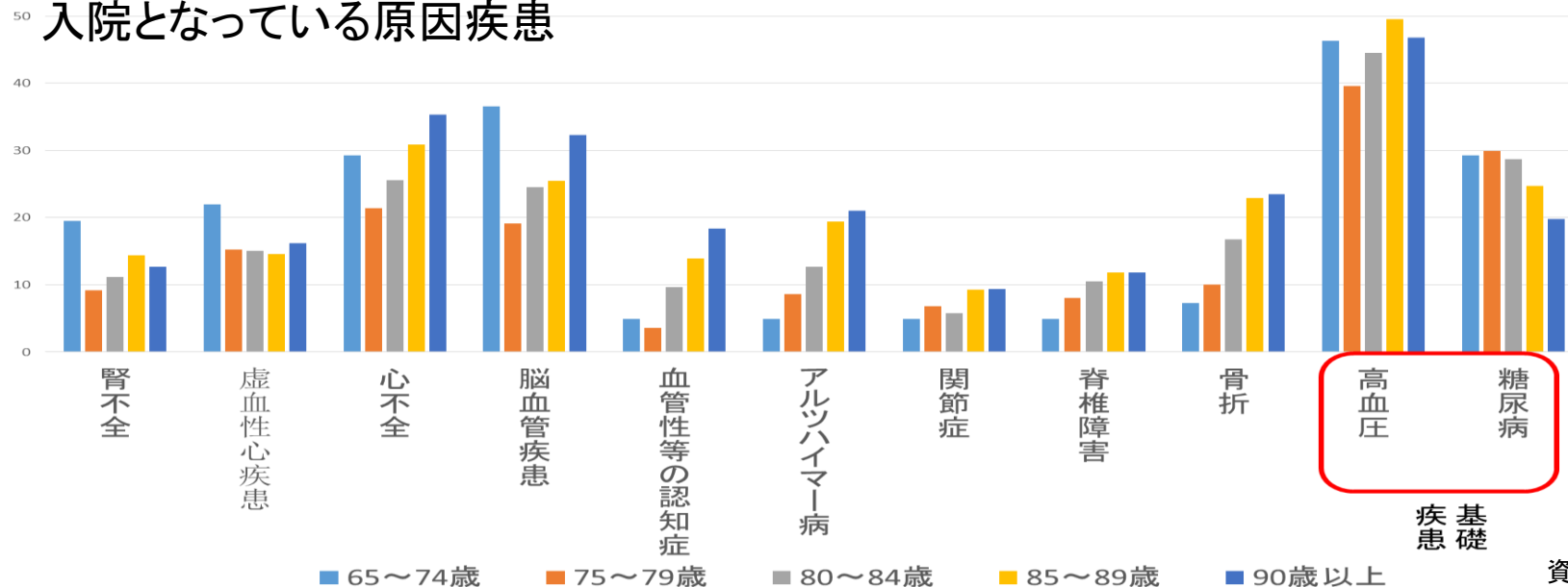
返信者のうち、ハイリスク者(48人)や健康相談希望者(48人)へ電話

# 糖尿病性腎症重症化予防事業

## ●課題

入院となっている疾患は、75歳から84歳では、高血圧と糖尿病が多く、年齢が高くなるとともに、心不全や脳血管疾患での入院が多くなっている。

入院となっている原因疾患



資料: KDBシステム

# 糖尿病性腎症重症化予防事業

---

## ●目的

糖尿病による合併症の予防、人工透析治療への移行予防

## ●内容と実績

- ①後期高齢者健康診査受診者(未治療者への受診勧奨):訪問 3人
- ②糖尿病治療中断者への受診勧奨:郵送
- ③健康診査受診者(特定健康診査を受けた75歳以上の者)でコントロール不良者への保健指導:希望者なし

## ●課題

事業開始時期が遅れ、保健指導のタイミングを逃してしまった。

# 来年度に向けての課題や改善点

- 関係課との連携体制が構築できていない

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施連携会議を開催

- 保健事業の展開ができていない、75歳以上高齢者への保健指導の難しさ

高血圧や糖尿病等の重症化予防のため、治療中断者へのアプローチ行う

- 地域包括支援センターの保健師や看護師との連携

各生活圏域ごとに地域課題を整理し、取り組み内容の検討



# ご清聴ありがとうございました

---

